

全国学力・学習状況調査を活用した

授業づくり参考資料

【中学校】



掲載事例

【国語】

・説明的な文章を読む(「葉の形」) 2 ー

【数学】

・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する(車型ロボット)
7 (2)

活用にあたって

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力をつけるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童・生徒の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な
児童・生徒の状況

「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



全教員で問題を解く



問題や解答を交流する



・全学級で取り組む指導の手だてを構想する

・教科等横断的に取り組む指導の手だてを構想する



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

文部科学省 調査結果の活用・分析の取組

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1344286.htm



国立教育政策研究所 「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



【中学校数学】複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する(車型ロボット) 7(2)

(車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。)

1. 問題の概要

出題の趣旨

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容 第2学年 D データの活用(1)イ(ア)

・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

評価の観点

思考・判断・表現

The image shows the problem statement and data tables. The problem asks to compare the distribution of data from five groups of car-type robots. The data tables are as follows:

段階	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.0	1.5	2.0	2.5
段階2	1.5	2.0	2.5	3.0
段階3	2.0	2.5	3.0	3.5
段階4	2.5	3.0	3.5	4.0
段階5	3.0	3.5	4.0	4.5

段階	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.0	1.5	2.0	2.5
段階2	1.5	2.0	2.5	3.0
段階3	2.0	2.5	3.0	3.5
段階4	2.5	3.0	3.5	4.0
段階5	3.0	3.5	4.0	4.5

正答(例)

- ・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれている。(解答類型1)
- ・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっている。(解答類型2)

2. 生徒の状況 (解答類型抜粋と反応率)

	解答類型	反応率(%)
正答	1 (A) 箱ひげ図の箱がだんだんと右にずれていっていることを記述している。	3.7
	2 (B) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていることを記述している。	3.8
	3 上記2以外で、四分位数のいずれかの値がだんだんと大きくなっていることを記述している。	14.7
	4 箱ひげ図全体が右側にずれていっていることについて記述している。	3.3
	5 上記1~4以外で、最大値がだんだんと大きくなっていることを記述しているもの。	3.8
	6 箱ひげ図の箱の長さやひげの長さについて記述しているもの。	6.9
	7 上記以外で、箱ひげ図から読み取れることを記述しているもの。	6.3
	8 箱ひげ図の読み取りを誤って記述しているもの。	7.8
	99 上記以外の解答	14.9
0 無解答	34.7	

箱ひげ図において、箱ひげ図の箱の位置以外のところに注目していると考えられる。
 「箱ひげ図の箱の位置で比較することの有用性」を理解できていないのではないか。

3. 授業づくりのポイント

- ✓ 複数の箱ひげ図の比較から分かることを根拠に、事柄が成り立つと判断する理由を子どもたちが表現できる場面を設定しましょう。
 例: 代表値や箱の幅、箱の位置など、複数の箱ひげ図を比較してわかることについて、どの情報が、事柄の成り立つ根拠となるのかについて考えられるようにする。
- ✓ 箱ひげ図の箱や四分位範囲の意味を捉え直すことで、箱の位置や四分位範囲の良さについて理解を深める場面を設定しましょう。
 例: 箱ひげ図やドットプロットなどを並べて示すことで、箱ひげ図の箱や四分位範囲に含まれるデータからその意味を捉え直し、箱の位置や四分位範囲で比べることの有用性を理解できるようにする。
- ✓ 統計的な問題発見・解決の過程の良さに気づくことができるような学習課題を設定しましょう。
 例: データを収集・整理し、分析し、考察して終わりではなく、統計的探究プロセスを回しながら課題解決をめざすことで、統計的な問題発見・解決の過程の良さに気づくことができるようにする。